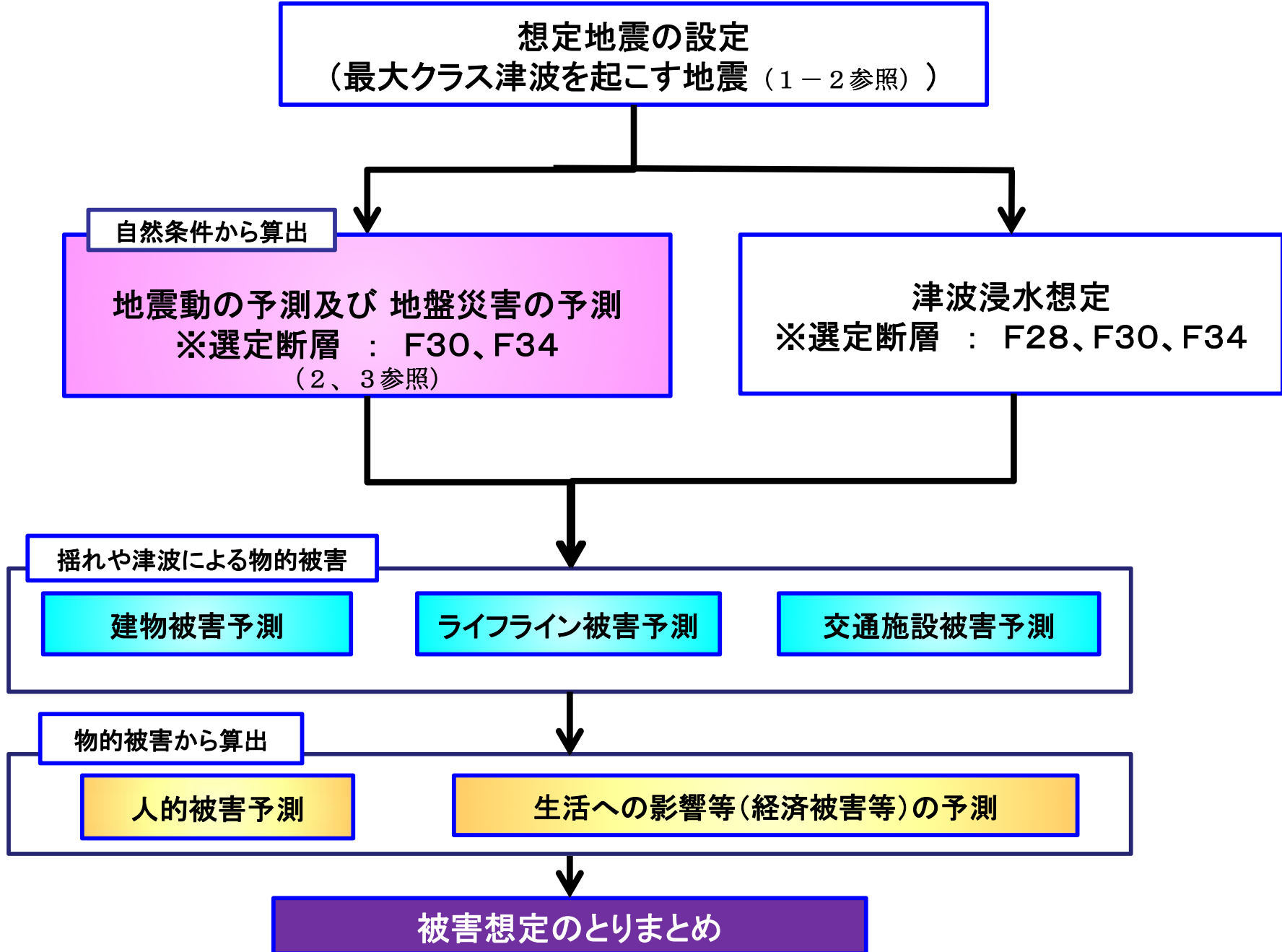


被害想定が進捗状況について

1. 被害想定の流れ
2. 地震動の予測(震度分布)
3. 地盤災害の予測(液状化危険度分布)

1-1 被害想定の流れ



1-2 被害想定の対象地震

【L2津波地震の選定】

- 国土交通省「津波浸水想定の設定の手引き(平成24年10月)」に基づき、地域海岸ごとに最大となる地震・検討ケースを選定
⇒F28断層、F30断層、F34断層

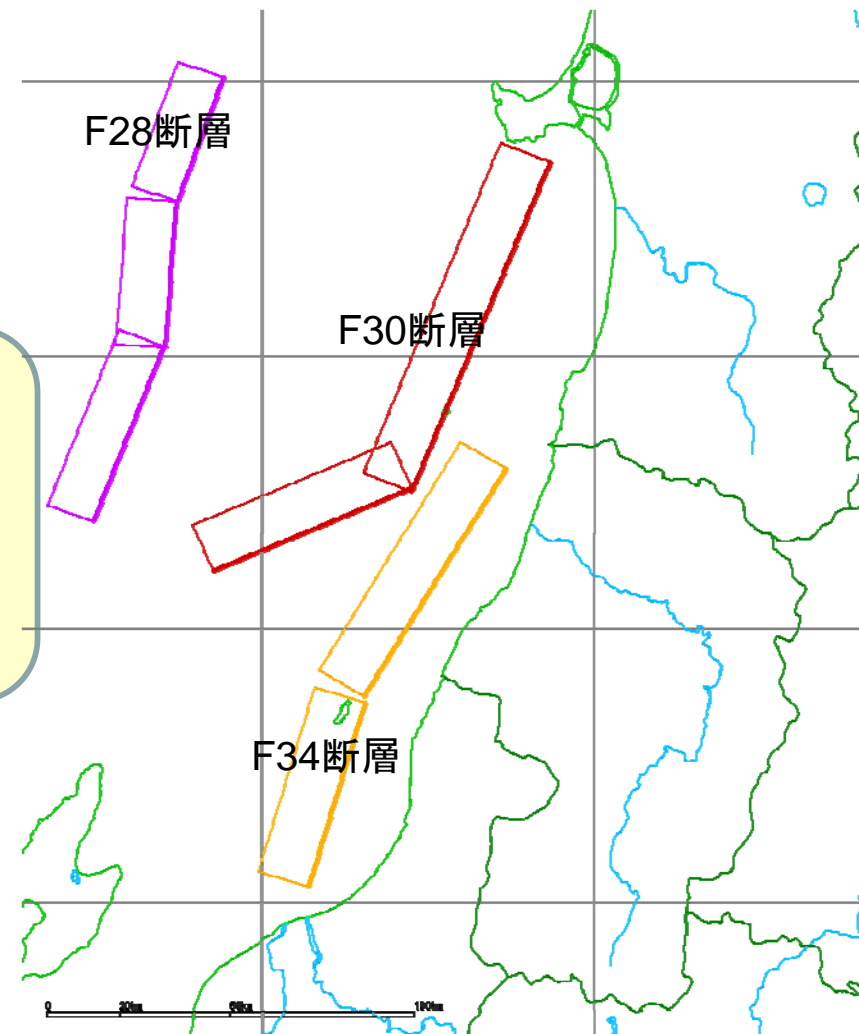
【地震被害想定・地域防災計画の考え方】

- 想定地震毎**に県全域の集計・市町村単位の集計が必要となる。
- 津波による**人的被害**では、**津波浸水深よりも到達時間**の方が被害の大小への影響が大きい。

【被害想定の対象地震】

- 全地域海岸に対し**、F30断層、F34断層の津波浸水シミュレーションをそれぞれ必ず1ケース以上で実施する。
- F28断層は、津波浸水想定の結果でF30断層による被害を上回る可能性がある場合に、津波被害のみ算出する。

- 飛島ではF28断層の浸水深が最大だが、到達はF30断層の方が明らかに早い。
- 地震動は遠いほど小さくなるため、F28断層による揺れでは建物被害はほとんど生じないと想定される。



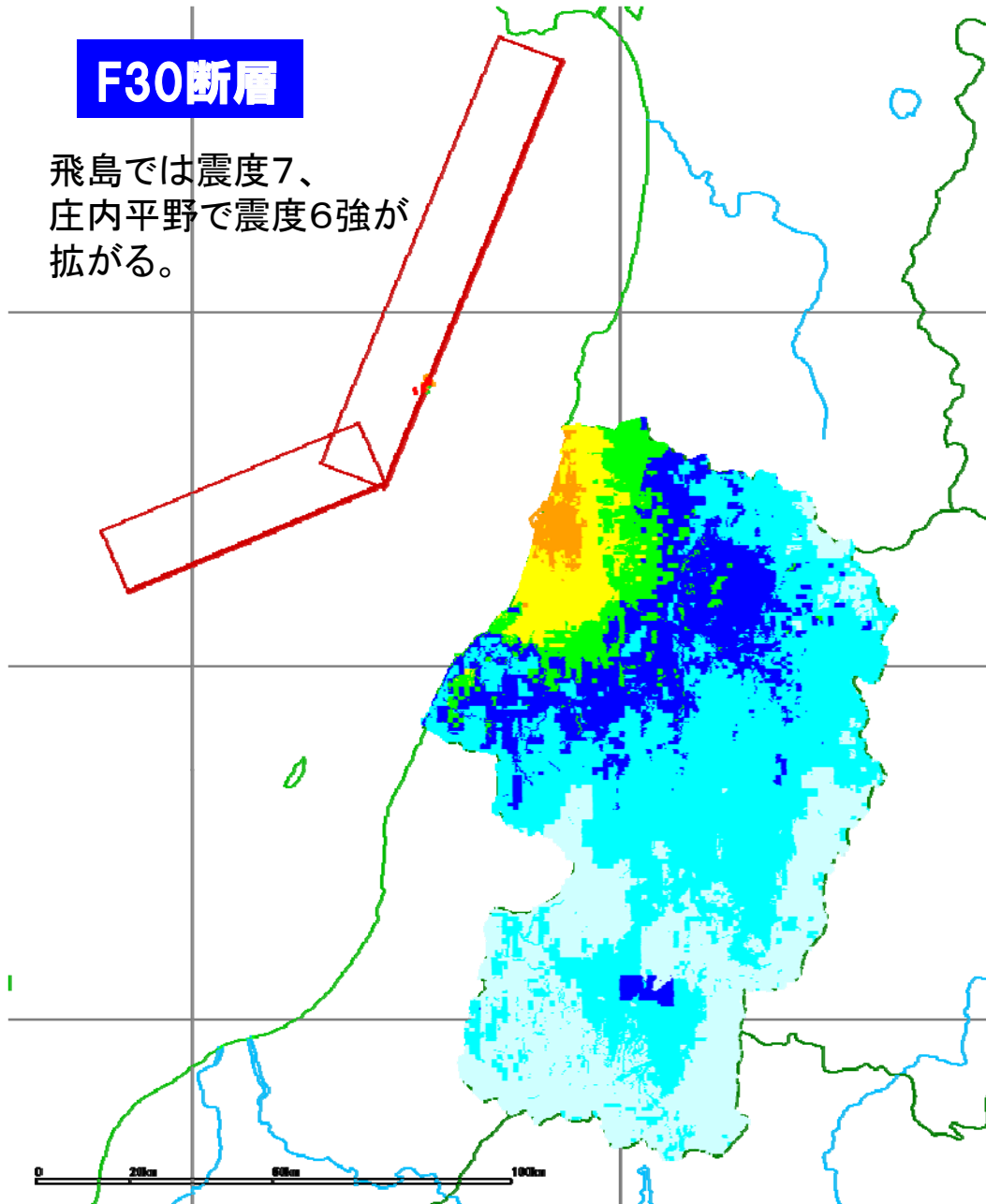
第3回委員会資料より

2 地震動の予測(震度分布)

4通りの基盤地震動×2通りの表層増幅(詳細法と簡易法)のうち、各メッシュで最大値を採用

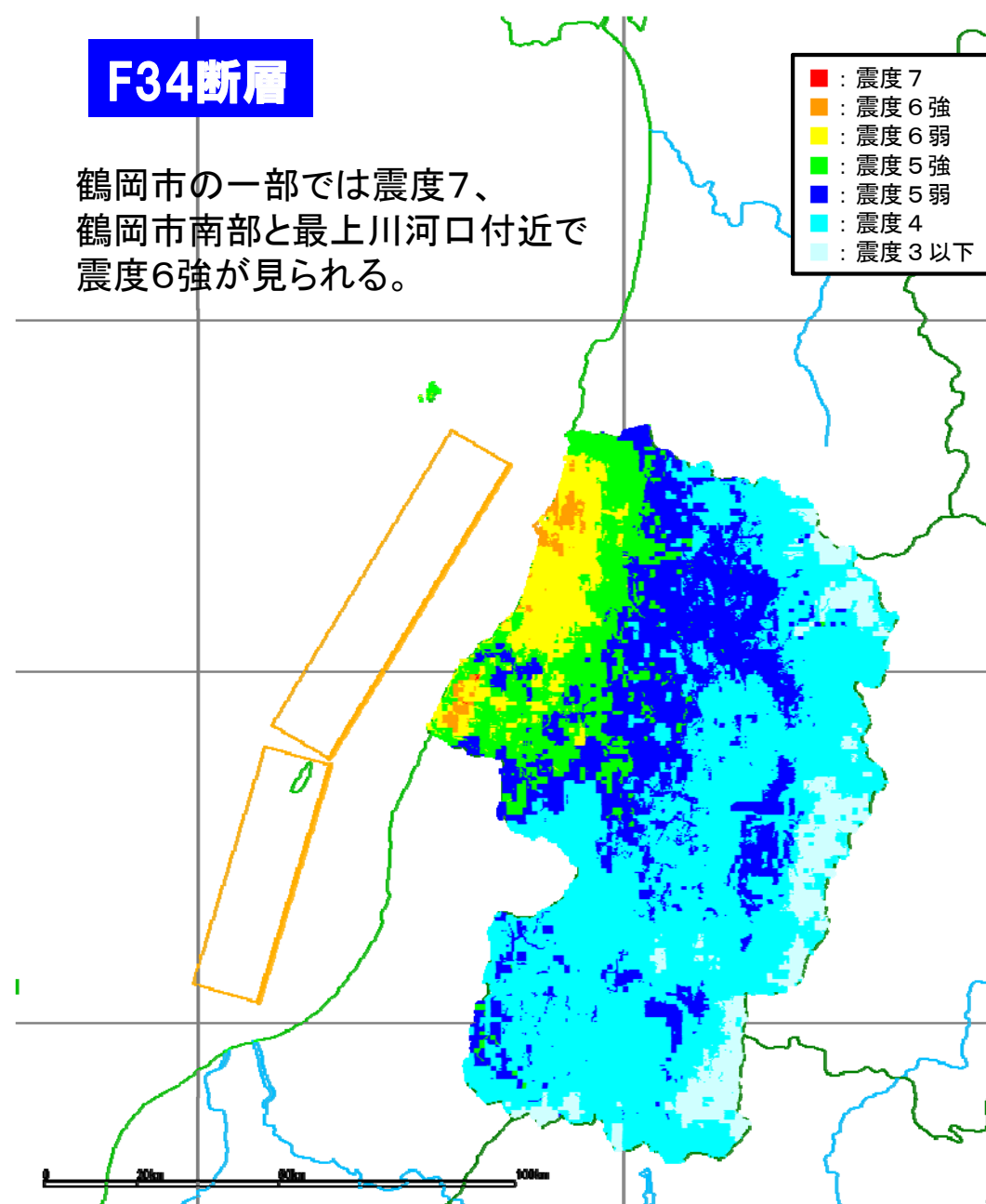
F30断層

飛島では震度7、
庄内平野で震度6強が
拡がる。



F34断層

鶴岡市の一部では震度7、
鶴岡市南部と最上川河口付近で
震度6強が見られる。



3 地盤災害の予測(液状化危険度分布)

- 庄内平野で液状化危険度が高い
- 過去の地震での液状化実績(日本の液状化履歴マップ)も庄内平野に集中している

